

会長挨拶

～医学科同窓会この2年を振り返って～

琉球大学医学部医学科同窓会 会長 蔵 下 要（3期生）



今年の沖縄は記録的に短い梅雨となり、このあと暑くて長い夏を予感させる今日この頃ですが、同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。

会長に就任させていただいてから、あっという間に2年が経過し、今年は役員改選の年となりました。今回は会長、副会長が全員留任を表明し、先の評議員会において正式に推薦を受けました。今年度の総会でご承認をいただくと、現執行部が2期目を勤めさせていただくこととなります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、3月の第109回医師国家試験の合格発表において、琉球大学は合格率91.6%で全国80校中44位、新卒生に限れば95.5%で34位と前年に引き続き良い結果となりました。ただ今回、非常に評価すべきことは、前年の全合格者数が98名であったのに対し、今年は109名もの合格者を出したということにあります。全国の各支部の同窓生からも安堵の声が聞かれます。合格された皆さんの健闘を称えたいと思います。2年続けていい結果を残せたのは、学部の医学教育企画室を中心として行ってきた、学生教育における様々な改革や取り組みが着実に成果として現れているからではないかと思えます。同窓会としては今後とも、医師国家試験対策模試への助成、既卒生に対するサポート、医師国家試験対策教員向け講演会や医師国家試験対策集中講義の後援などを通して、学部と連携をとりながらバックアップを続けていきたいと考えています。

母校の琉球大学医学部に今年から2つの新たな講座と1つの附属病院診療科が開設されました。再生医学講座、先進ゲノム検査医学講座、そして附属病院形成外科です。この中の再生医学講座が入る再生医療研究センターの建物が6月に完成しました。この再生医療研究センターの事業は再生医療関連企業、沖縄県、琉球大学による産官学連携プロジェクトであり、基礎研究のみならず、再生医療による治療を実地臨床として行っていくこと、再生医療の発展に寄与する人材を育成することを目的としていると聞いています。沖縄県内で勤務する医師の約4割を同窓生が占めるようになった今日、このプロジェクトを進めていくにあたって、今後同窓生の関わりが必要になってくる時期が来るものと思われれます。近い将来、沖縄の患者さんが先端の再生医療の恩恵を受けることのできる日が来ることを期待したいと思います。

ここ数年、琉球大学本学同窓会との関係を深めています。昨年度は私が本学同窓会会長、副会長の選考委員の一人としてご指名を受け、選考作業に関わらせていただきました。医学部医学科同窓会総会の懇親会には本学同窓会の会長または副会長に毎年ご出席をいただいております。これから医学科同窓会が琉球大学本学のニーズや沖縄の社会のニーズに少しでも応えていくために琉球大学本学同窓会との連携は今後とも大切にしていきたいと考えております。

第23回琉球大学医学部医学科同窓会通常総会・講演会・懇親会が、7月19日（日）に開催されます。総会においては次期同窓会役員の数、同窓生からの依頼によるネパール地震災害に対する支援の件、同窓会終身会費制度に関する件などの重要な審議事項を提出させていただき予定となっております。また恒例となりました卒業20年目の同窓生による講演会においては、9期生で琉球大学内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座の准教授になられました友寄毅昭先生にご講演をさせていただきます。またこれに引き続き、特別企画として再生医学講座の野口洋文教授による再生医療研究センターのご紹介もあります。更には卒業20年目の9期生と卒業10年目の19期生の同期会も企画されています。総会、講演会、懇親会ともに多くの同窓生の皆様にご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。